

# Daito toDay



No. 5

9月 + 10月合併号



発行日	2018年10月31日	〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
発行	大東文化大学 学長室	po@ic.daito.ac.jp
編集	河内利治	<a href="http://www.daito.ac.jp/president_blog/">http://www.daito.ac.jp/president_blog/</a>

## 知の共同体を創る

10月1日には多くの人々に光明をもたらしてきた医学生理学上の業績に対して本庶佑先生(京都大学)に2018年ノーベル賞が授与され、基礎研究について改めて議論されています。また2018年イグ・ノーベル賞として堀内朗先生(昭和伊南総合病院)に医学教育賞が与えられました。

大学における研究やその役割をどう考えればよいのでしょうか。大学では研究と教育とが一つのものとして追求されることが基本的な前提です。大学研究に公費が投入される中で、研究する者の自由な思考だけでなく、研究の推進には社会の価値観への配慮や社会の負託に応えるような成果も求められ、市民の理解も欠かせません。

基礎研究の意義は、歴史が教えるように研究成果が役に立つか否かといった価値判断とは一線を画することにあります。また、先端研究は基礎・応用研究を問わず、しばしば専門分野が交差する場所で萌芽し、新たな研究分野に成長します。このような研究の動的発展は多様な課題と要望を抱えた研究者集団が分野を越えて交流、議論することによって生み出されてきました。

研究成果を広く公開することで、人類の共通資産としてそれらが活用され新たな知が創出されるという循環が生み出されています。自律した個人や集団が人類全体の英知を向上させるという学問研究の目的に照らし、学術全体の方向のアレンジが世界的課題となっています。

### 大東文化大学の研究姿勢

大東文化大学は『DAITO VISION 2023』において、大学研究の姿勢を「開かれた知の共同体をつくり、大東文化らしい高度な研究を創造する」としてつぎのように謳っています。

1. 個人の自由な研究活動を発展させると同時に、「知の共同体」としての機能を充実する。
2. 基礎研究を重視すると共に、地域や社会の要請に基づくプロジェクトを展開する。
3. 研究所体制を再編成し、学際的でダイナミックな研究を発信する。
4. 大学院を再編成し、「大東文化」らしい教育と研究を充実させる。

### 研究推進室の設置

10月31日の理事会で、2019年4月から**研究推進室**の開設が承認されました。研究推進室は、全学的に研究支援業務を統括し、「開かれた知の共同体」、「大東文化らしい高度な研究」の推進を目的とし、本学の教育改革に連動して研究組織を活発化させ、大学組織がコーディネータとなって全学横断的に研究者を手配・紹介する研究プロジェクト設計までも視野に入れた組織です。

研究推進室の構想は、学長室が2018年6月から7月にかけて大東文化大学専任教員に対して実施した「大東文化大学における学術研究の推進にかかるアンケート」結果に基づいています。次ページにその集計概要を紹介しました。

自由な発想のもとで研究が行われ、たくさんの人が集まって議論する中で問題意識を生み出し、新しい研究や学問が不断に生まれ育つ大学を維持することは、大東文化大学が取り組むべき社会的責任の一つです。知的創造を担って社会全体の共通基盤の形成に積極的に参与することが今後の知識基盤社会における本学の公共的役割だと考えています。

# 大東文化大学における学術研究の推進にかかるアンケート【集計】

数値は人数

本学教員の回答者数 101名

2018年6～7月

文学部	10	経済学部	11	外国語学部	15
法学部	11	国際関係学部	12	経営学部	8
スポーツ・健康科学部	23	社会学部	7	環境創造学部	1
書道研究所	1	東洋研究所	0	国際交流センター	1
教職課程センター	1	法務研究科	0		

## 「開かれた知の共同体」へ……研究者の思い

「DAITO VISION 2023」が掲げる「開かれた知の共同体」、つまり、研究者・事務職員・学生・地域住民・自治体・企業などと協力して研究を創造・推進し、また、研究成果を共有すること、を実現するために、「各研究者は」どのような取り組みを行うべきだと思いますか。

他研究者・自治体・企業などとネットワークをつくる。又、共同研究を行う。	31
研究成果を積極的に発信する・共有する。	31
地域住民と協力・共同して研究を行う。	19
自らの研究を追求する。	10
外部資金への応募を積極的に行う。	4

## 「開かれた知の共同体」へ……大学がすべきこと

「DAITO VISION 2023」が掲げる「開かれた知の共同体」、つまり、研究者・事務職員・学生・地域住民・自治体・企業などと協力して研究を創造・推進し、また、研究成果を共有すること、を実現するために、「大学は」どのような取り組みを行うべきだと思いますか。

研究成果の公表・共有にかかる活動への支援	24
研究者同士のマッチングの機会の提供	17
地域・自治体・企業との連携支援	16
学内業務の負担軽減・研究時間の確保	15
財政的な支援	13
優れた研究・大学の要請にあう課題に予算を重点配分	10
研究成果に対する評価基準や評価制度の策定	6

## 大東文化らしい高度な研究

「DAITO VISION 2023」が掲げる「大東文化らしい高度な研究」とはどのようなものだと考えますか。

「東西文化の融合」や国際研究をベースに現代的な課題の追求を行う	23
学部学科・専門領域を超えた共同研究。総合大学の強みを活かす総合研究。	21
研究に「大東文化らしさ」は不要である・各自の研究を進める・わからない	20
アジアを中心とした研究	14
漢学・書道	6
地域連携	3
多文化共生	3

## 科研費応募件数の向上

本学においては、研究者数に対する「科研費」応募件数が少ないことが分かっています。これを向上するために、「大学は」どのような取り組みを行うべきだと思いますか。（複数回答）

科研費応募の義務化	10
事務側の支援体制拡充	48
研究時間の確保（研究以外の業務の削減）	78
科研費応募者・採択者へのインセンティブ付与	48
一般研究費（個人研究費）の削減や傾斜配分	10

## 学術研究の発展へ……研究者の思い

「科研費」に限らず、本学における学術研究を現在よりも発展させていくために、「研究者側には」何が必要だと思いますか。

自らの努力・研究者であるという認識・モチベーションの維持	48
研究時間の確保・業務の配分スキル	22
研究成果を公表すること	17
他の研究者等との交流・情報交換	11
学外研究費への挑戦	3

## 学術研究の発展へ……大学がすべきこと

「科研費」に限らず、本学における学術研究を現在よりも発展させていくために、「大学側には」何が必要だと思いますか。

研究以外の業務の削減・研究時間の確保	30
事務の支援体制の拡充・研究支援部署の新設	21
研究業績に対する評価制度（インセンティブ含む）	14
学内外の研究者とのマッチング・共同研究の支援	9
財政的な支援の拡充・研究費の増額	5
研究成果報告の義務化	3

## 梧桐章の制定

梧桐章（ごとうしょう）は、優れた研究教育活動または研究教育業績を挙げ、学園の研究教育環境の充実および研究教育活動の推進に寄与し、学園の名誉を高めた者を表彰し、学園への帰属意識の高揚に資することを目的とした職員研究教育活動顕彰制度です（2018年7月4日理事会承認）。

上記「アンケート」において学術研究の発展のために本学がすべきこととして多く要望のあった「事務の支援体制の拡充・研究支援部署の新設」は研究推進室の発足によって、次いで要望のあった「研究業績に対する評価制度」は梧桐章の制定によって整うことになります。大東文化大学は社会に開かれた知の共同体としての役割を自ら問い続け、さらなる発展を目指します。